



黄 源 《麒麟图》 麻纸、岩绘具 2273 × 1818 mm

《麒麟図》

中国と日本の「麒麟」図を融合した作品制作

《Kirin-Zu》

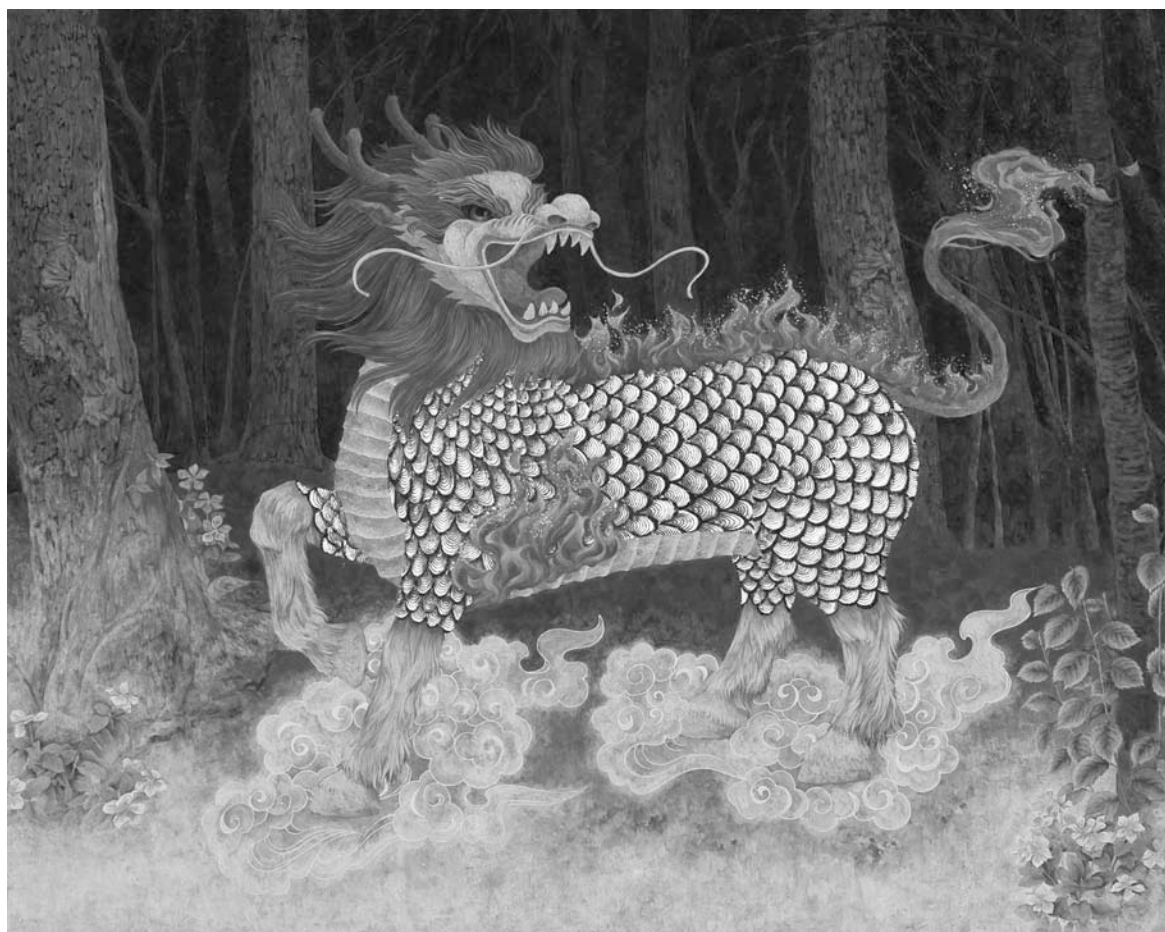
A Study on Creating a Work of Art in which Several Characteristics of  
Chinese and Japanese Kirin-zu are Fused

黄 源

Gen KOU

崇城大学大学院芸術研究科美術専攻

Division of Fine Art, Graduate School of Art, Sojo University



《麒麟図》

麻紙、岩絵具 2273 × 1818 mm

稿者は、熊本地震を体験したことで、地震にみまわれた熊本のために、修了制作において「麒麟」という不祥や災害などを取り除くことのできる霊獣を、中国と日本の絵画の要素を融合させて描くことを試みた。本稿は、その作品に関する制作論である。稿者は、何が日本の「麒麟」図の要素で、何が中国の「麒麟」図の要素であると言えるのかや、どのようにそれらを融合させたらよいのか、さらには、日本画の画趣をまねずに、日本絵画と中国絵画の要素を融合して制作すれば、稿者が表現したい趣きや雰囲気を表現できるのか否かを、本制作論を通して明らかにするように努めた。全体は3章から成っており、各章の展開は以下の通りである。

第1章では、稿者が修了研究作品の主題を決定するに至った理由や経緯について述べた。具体的には、まず1節で、「麒麟」を主題に選んだ契機について述べ、2節で、麒麟の寓意と「麒麟」の漢字としての意味を説明した。次いで3節では、稿者の過去の作例を挙げながら、稿者が考える日本画と中国絵画の相違点や、日本画の画趣をまねずに、日本絵画と中国絵画の要素を融合すれば稿者自身の趣きや個性を表現できるのではないかと考えて、制作に着手したことについて述べた。

続いて、第2章では、修了研究のテーマである「麒麟」と「麒麟」の関係や違いについて述べた。まず1節では、日本の麒麟と中国の麒麟の相違点について述べ、2節で「麒麟」と「麒麟」それぞれの解釈、また3節では日本の麒麟と中国の麒麟の図像の特徴と、中国における麒麟の伝統的な三類型、さらに中国における麒麟図の形成過程について述べた。

次いで、第3章では、修了研究作品の《麒麟図》の制作過程について概説した。まず、1節と2節で修了制作の構想と構図、続く3節で小下図に関する稿者の考えを述べ、4節から実際の修了制作の作業の説明に入った。4節、5節、6節では絵を描く以前に必要な作業について述べた。続く7節、8節、9節、10節では、下図制作から本画制作までの様々な作業について述べた。また、11節では、彩色に対する稿者の考えと、それに伴う問題について述べ、最後の12節で画面の趣作りについて述べた。

そして最後に、修了研究作品《麒麟図》を制作することによって得た成果と反省点について述べ、本制作論のまとめとした。